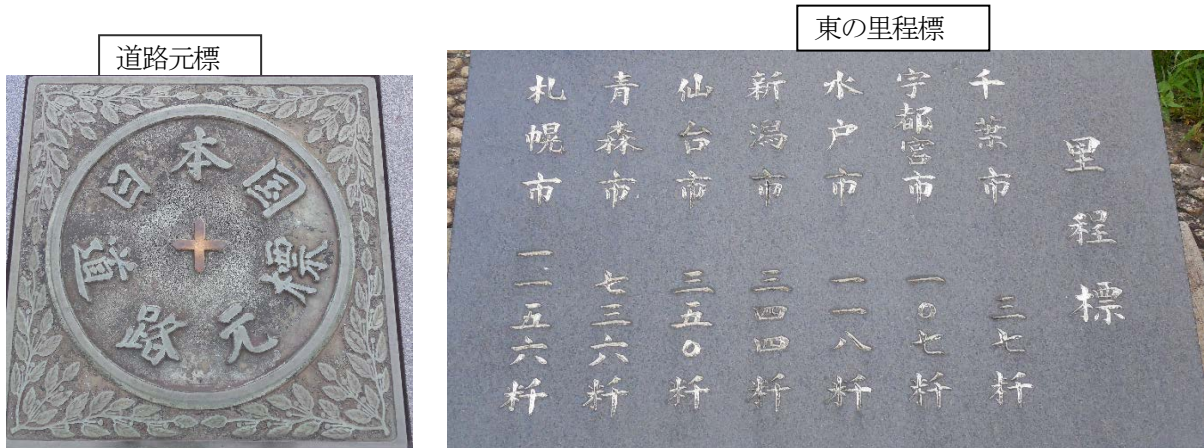


1日目 日本橋 -9.8Km> 板橋 -8.9Km> 蕨 -5.6Km> 浦和 -5.0Km> 大宮 -7.9Km> 上尾

お江戸日本橋

2014年9月6日(土)、旧中山道 69次 534Km ウォーキングを日本橋からスタート、時刻は午前7時、天候は曇り。日本橋には日本の道路の原点となる道路元標と、西は鹿児島、東は札幌までの里程標がある。東の里程表を見ると、新潟まで 344Km、仙台まで 350Km とあり、旧東海道の41番目の宿場の名古屋の宮まで 347Km なので、新潟・仙台は名古屋とほぼ同じ距離となる。今迄、両市とも名古屋よりもはるかに遠いと考えていた。



日本橋界限

旧中山道は日本橋を北上、左側にデパート日本橋三越があり、当然早朝でクローズ、玄関のライオン像は2匹とも黄金のマスクをしていた。マスクはどんな意味があるのかかと思ってネットで調べると、「ワンダー・マスクアート博物館」を開催していて、能面や民族マスク等を展示しているらしい、ただの宣伝だった。



日本橋本町で右折して寄り道、10分程歩くと、地下鉄小伝馬町駅の出口に時代小説によく書かれる伝馬町牢屋敷の碑がある。

この牢で吉田松陰も亡くなったと書かれている。

時代小説でお馴染みの日本橋、伝馬町、八丁堀等の地名は以外に狭い範囲、それはそうだろうな、昔はみんな歩いたのだから。八丁堀の同心も足で江戸の町をパトロールした。

神田から本郷、白山

伝馬町から旧中山道に戻り、北上する。

JR 神田駅のガード下をくぐり、神田須田町を抜け、神田川を古い方の万世橋で渡り、左側は湯島聖堂、右側は神田明神、東京歯科大の横を抜け、本郷通りを歩いて東大の赤門前を通過。

本郷追分を左折して白山通りへ、白山で脇の路地を曲がり、その圓乗寺にある「八百屋お七の墓」に寄り道。

この墓には社が建てられ、「八百屋お七地蔵尊」として祀られている。

八百屋お七地蔵尊



八百屋お七の墓の説明

や お や しち はか
八百屋お七の墓
文京区白山1-34-6

お七については、井原西鶴の「好色五人女」など古来いろいろ書かれ語られて異説が多い。お七の生家は、駒込片町(本郷追分など)で、かなりの八百屋であった。天和の大火(天和2年(1682)12月、近くの寺院から出火)で、お七の家が焼けて、菩提寺の圓乗寺に避難した。その避難中、寺の小姓の佐兵衛(または吉三郎)と恋仲になった。やがて家は再建されて自家にもどったが、お七は佐兵衛に会いたい一心でつけ火をした。放火の大罪で捕らえられたお七は、天和3年3月29日火あぶりの刑に処せられた。数えで16歳であったという。三基の墓石のうち中央は寺の住職が供養のため建てた。右側のは寛政年間(1789~1801)岩井半四郎がお七を演じ好評だったので建立した。左側のは近所の有志の人たちが、270回忌の供養で建立したものである。

— 郷土愛をはぐくむ文化財 —
文京区教育委員会 平成14年3月

巣鴨

JR 山手線を巣鴨で超えるとすぐに巣鴨商店街、旧中山道はこの巣鴨商店街(巣鴨地蔵通り)を通っている。休日には真っ直ぐに歩けない程の人手の「おばあさんの原宿」も早朝の事で商店は全てシャッター、買い物客は無く、普段は待ち行列のできる「とげ抜き地蔵」も人影なし。

巣鴨を通り過ぎ、都電荒川線の踏切を越える、残念ながら、昔懐かしい都電とはタイミングが合わず、お目にかかれなかった。

巣鴨商店街



近藤勇の墓

JR 埼京線の踏切があり、その手前で左折して JR 板橋駅に寄り道。 駅前に新選組の近藤勇/土方歳三/永倉新八の墓がある。 近藤勇は板橋宿付近で刑死し、首級は京都へ送られ、胴体はこの地に埋葬されたそうで、近藤勇/土方歳三とは袂を分かった新選組元隊士の永倉新八が明治 9 年に墓を作り、その後本人もここに埋葬されたとのこと。 墓石には計 110 名の隊士の名前が刻まれている。 以前、東海道を歩いた際、三河の藤川宿の宝蔵寺で近藤勇の首塚を見ているので、今回で全身の墓を見たことになる。

近藤勇と土方歳三の墓



近藤勇像



板橋宿 1 番目

板橋駅の踏切を超え、しばらく歩き、高速道路をくぐって旧中山道最初の宿場板橋に到着。

入口には、板橋宿と書かれたゲートが作っており、そのゲートの上には兔が座っている。 と言っても、宿場としての遺跡は何もなく、普通の商店街で見るべきところも無いので、足早に宿場を通り抜ける。

板橋宿の入口



縁切榎

板橋宿のはずれに縁切榎がある。

「男女の悪縁を切りたい時や断酒を願う時に、この榎の樹皮を削ぎとって煎じ、秘かに飲ませるとその願いが成就する」との信仰があったそうで、嫁入り際はこの木の下は通らなかつたらしい。

幕末の有名な「和宮降嫁」の際に、和宮の行列は中山道を通つたが、縁切榎の前は通らず迂回したとのこと。

本当に効き目があるのなら、ストーカー被害者に教えてあげたいところ、現在の榎は3代目のことで、まあ、3代目ともなればあつたとしても効き目は薄いだらうな。

ところで、使用しているPCのMS WORDでは、えのきが榎に変換できない、頭の悪い奴め!

スマホの活用

板橋を出てから、中山道は17号線と離れたり、一緒になったり、本蓮沼、志村坂上と北上して行く。地図を片手に歩いて行くが、途中で道に迷い、現在地が分からなくなつてしまった。そこでスマホの出番、スマホの地図アプリを使用すると、現在地が地図の上に示される。これは便利。



縁切榎

蕨宿 2番目

荒川にかかる戸田橋の中程に、「埼玉県戸田市」の標識があり、埼玉県に入る。17号線を歩いて戸田市から蕨市となり、旧中山道2番目の宿場、蕨宿に到着。宿場の入口には蕨宿と書いたゲートがあり、宿場町の雰囲気を残す町づくりとなっている。

マンホールの蓋がかわいい、雀が三度笠を被って股旅姿、道路の側溝の蓋もわらび宿と雀のモチーフとなっている。ネットで調べると、「道中合羽のわらじろう」とあり、雀ではなく平和のシンボルの鳩とのこと。



蕨宿のマンホールのフタ

蕨宿の側溝のフタ



宿場の中程に、歴史民族資料館があり、無料なので見学、旅籠の客と女中の人形や機織り機、古い道具が置いてあるが、主たる展示物は現在の特産物やアート。蕨宿の本陣は、跡を示す碑のみ、他には土蔵のある旧家が1軒、道路には中山道の各宿場のタイル絵が敷かれている。

時刻は11時半、朝食は5時だったので空腹、うどん屋さんに入り、昼食はアナゴ定食。

蕨宿のタイル絵



土蔵のある旧家



焼米坂

蕨を過ぎると行政的にはさいたま市。さいたま市は、浦和市と大宮市、与野市が合併した大きな市である。さいたま市に入ったあたりに、焼米坂の標識がある。坂と呼ぶのは大げさ過ぎる坂だが、焼米は昔ここにあった茶店の名物で、粃のままの米を焼き、殻をとったもの。昔の保存食であり、携帯食。その焼米に糖蜜をからめてお菓子としたものが「オコシ」とのこと、一つ勉強した。

焼米坂



狛兔の調神社

浦和駅の近くに、調(つき)神社があり、そこには狛犬ならぬ狛兔がある。

左の狛兔



右の狛兔

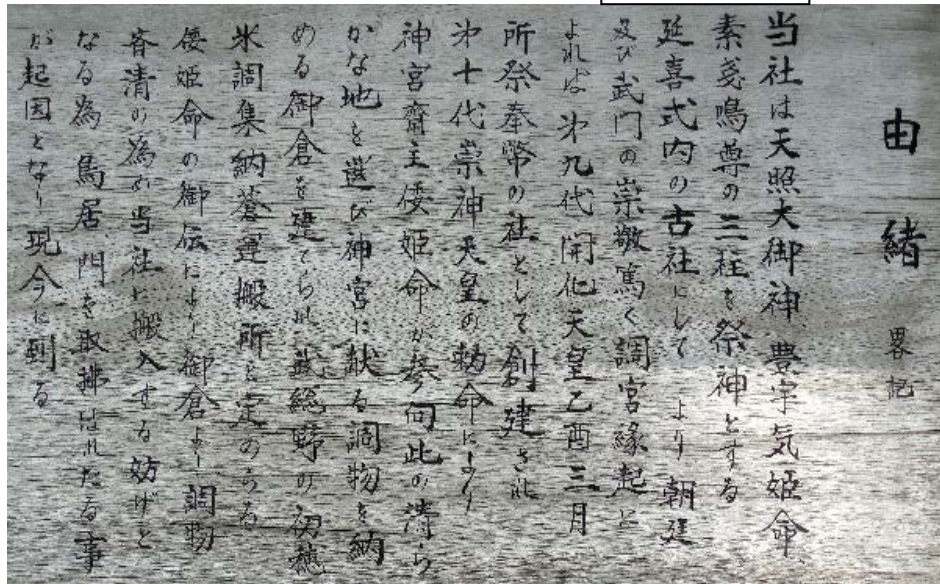


境内の入口の両側に兔が鎮座しており、その台座に万延2年(1855年)建造と書かれている、「万延元年のフットボール」と云う本を読んだのを思い出した。

半世紀前、歴史で租庸調と言う税制を勉強したが今は完全に忘れている。

ネットで調べると、租は「あわ」、庸は「労役」、調は「絹や木綿の布」、この付近は税の一つである調の集積地だったとのこと。この調が「みつぎ物」と呼ばれ、「みつぎ」が「みつぎ」となり、敬語の「み」をとって調を「つき」と呼び、さらに「つき」が「月」となって「お月様信仰」と結びつき、お月様のお使いである兎をまつることになったらしい。

調神社の由来



浦和宿 3 番目 → 大宮宿 4 番目 → 上尾宿 5 番目

浦和宿から大宮宿を経由して上尾宿まで約 13Km、遺跡・遺構は全くなく、途中に「さいたま新都心駅」という新しい大きな駅と商業施設があり、そこでトイレ休憩、あとはただひたすらに街中を歩くのみ。午後 4 時に上尾駅に到着、湘南新宿ライン特別快速で帰途につく。

本日の歩数は 6.5 万歩、距離は約 45Km。最初は曇りだったが、途中より日が差して気温は上昇、ソフトクリームを食べながら歩く。飲んだ水はペットボトル 3 本。

1日目

